

仕事の実態が明らかになる

千葉工務協第34回定期委員会開催

3月5日(土)
13時～千葉工務協第34回定期委員会が千葉地本会議室において開催され、当分会から代議員含め4名が参加しました。



永野副議長の司会で始まり、委員会議長には千葉土木分会の土屋憲一さんが選出。「今年8月でエルダー社員を終了する。国労の仲間がいるから頑張れる」と挨拶され、議事が進行されました。千葉地本北嶋書記長より今後の取り組み含め、社員代表選について「各保線技術センター(成保・千保・網保・西保)などの職場で分会組織以上の票を得ている。一層信頼される為にも社員代表選も大切」と挨拶され、続いて千葉工務協森田議長から「JR発足35年が経過しようとする中、保線の再編が浮上した。この間、工務職場では合理化で職場統廃合や要員が減らされた。『要員を増やしてほしい!』と言わなければ何も変わらない」と挨拶されました。その後、2020年度決算・会計監査報告・2021年度予算案・方針案を提起した後、質疑応答に入りました。

印象的な議論では、レールや継目板折損の事象から「モニタリング装置が導入され、逆に徒歩巡視周期が延伸になった。当然現場を見ての判断じゃないから異常を即発見できない」「データなど数値確認での判断に時間が掛かる」といった問題が出され「地本にこういう問題を上げながら団体交渉開催と改善を目指したい」と海後事務長が集約され、2021年度の予算案と方針案は承認され、森田工務協議長の「団結ガンバロー」で終了となりました。議事を進行されました土屋憲一さん、大変ご苦労様でした。

社員代表選挙を振り返って

西船橋保線技術センターでは過半数以上の労働組合がないため昨年に引き続き、社員代表の転勤に伴う5回目の社員代表選挙が1月(3月31日迄)に。次年度に伴う6回目の投票が2月に実施されました。

昨年の社員代表選挙結果

2021年2月19日開票

線路科社員	4
企画安全科主任	20
白票(無効)	1
社員数	計25(国労組織4)

社員代表転勤に伴う社員代表選挙結果

2022年1月28日開票

線路科指導	6
企画安全科主任	15
白票(無効)	1
欠票(無効)	1
社員数	計23(国労4)

2022年度に伴う社員代表選挙結果

2022年2月21日開票

線路科指導	6
企画安全科主任	17
社員数	計23(国労4)

今年の2回選についても「良心的な労働組合の存在価値を無くしてしまえば『安全・安定輸送の担保』や『労働衛生管理の保証』はない」と今回訴え、線路科指導係の国労組合員が立候補を決意しました。結果は上記の通り、過半数には至りませんでした。しかし、国労組織票以上の票を得たのは、期待されている証だと考えます。

やはり、労働組合や社友会の推薦社員代表として捉えるのではなく、あくまで職場の社員代表として捉え、職場の「労災防止」や「安全衛生管理」が大切であり、それを真剣に考え取り組むことが求められます。